

ランンキュラス新品種 「08-3-23」および「08-5-41」の育成

1. 背景とねらい

さぬき市と三豊市を中心に栽培されているランンキュラスは、塊根を用いた栄養繁殖で増殖するため、ウイルスが蔓延して切り花の品質が著しく低下する事態になっていましたが、農業試験場が開発した無病苗育成・増殖技術により高品質化が図られ、市場での高い評価が得られるようになりました。これに伴い、新規参入者や経営規模拡大等による栽培面積の増加など、産地の活性化がみられています。一方で、産地間競争の激化に対応するため、県オリジナル品種による産地ブランドの形成に対する要望も強くなってきています。

農業試験場においては、独自性と多収性を兼ね備えた品種の育成を目標に、平成10年から交配育種を開始しました。その結果、平成20年に濃ピンクの「紅てまり」、平成21年に白色で極多収性の「雪てまり」を品種登録し、平成23年には白地にピンク覆輪の「小春てまり」を品種登録出願しました。これらの品種は「てまりシリーズ」として県内で栽培されています。

「てまりシリーズ」の市場での認知度は徐々に高まっていますが、より競争力のあるものにするためには花色のバリエーションを増やす必要があります。そこで今回、濃い黄色の「08-3-23」およびレモンイエローで芳香性を持つ「08-5-41」の2品種を新たに育成しました。

2. 成果の概要・特徴

「08-3-23」

平成20年4月に既存の「ビクトリアオレンジ」選抜系統を母親、中間母本「7BC4-33」を父親にした交配で得られた実生集団から選抜し、平成24年6月に品種登録の出願を行いました。

- ・花は濃い黄色の中大輪です（写真1）。
- ・花茎が太く空洞ができにくく硬いため、高品質な切り花が安定して出荷できます。秀品率は、「ミノス」78.9%に対し「08-3-23」は86.3%と高くなっています（表1）。
- ・採花開始日は12月19日と早く（表1）、高値の年末から出荷することができます。

「08-5-41」

平成20年4月に中間母本「7BC4-33」を母親、既存の「ビクトリアオレンジ」選抜系統を父親にした交配で得られた実生集団から選抜し、平成24年6月に品種登録の出願を行いました。

- ・花はレモンイエローの中大輪です（写真2）
- ・芳香性を持ち、香りは採花後も続き、晴天時や暖かい部屋で特に強くなります。
- ・株当たりの採花本数は「雪てまり」とほぼ同程度に多く、秀品率も83.9%と高い（表1）ため、単位面積当たりの大幅な収益増加が見込めます。

3. 成果の活用面・留意点

- 1) 「てまりシリーズ」のカラーバリエーション充実と、芳香性という新たな付加価値をアピールするこ

とで、市場評価の向上が期待できます。

- 2) 秀品率が高いため、単位面積あたりの収益増加が見込めます。
- 3) 2品種ともに平成25年夏からウイルスフリー球根の供給を開始する予定です。

4. 主要なデータ

表1. 「08-3-23」および「08-5-41」の品種特性

主な特性	品種名			
	08-3-23	08-5-41	ミコノス	雪てまり
花色	濃い黄	レモンイエロー	レモンイエロー	白
採花開始日	12/19	12/29	1/4	12/26
採花本数(本/株)	11.3	16.0	12.8	15.5
平均花茎長(cm)	57.3	57.8	58.8	48.0
平均花茎径(mm)	4.7	4.3	4.2	3.6
秀品率(%) ^(注)	86.3	83.9	78.9	57.3

*栽培は、無加温プラスチックフィルム温室で行った。乾燥保存していた塊根を8月下旬から冷蔵処理し、10月上旬に定植した。調査は、採花開始から3月末日まで行った。

注) 秀品率(%) = (花茎 40cm 以上で奇形の無い採花本数/全採花本数) × 100



写真1 「08-3-23」の開花状況



写真2 「08-5-41」の開花状況

5. 試験期間 平成20～23年度